

令和3年度 年間指導計画および評価計画 中野区立第2中学校 家庭科3年

		時 数	指導 要領	○学習目標 / 学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
A 1 . 自 分 の 成 長 と 家 族 ・ 家 庭 生 活	①今の自分 とこれまで	1	A(1) ア	○自分の成長と家族や地域の人 びとのかかわりと自分自身の 理解を深める。  ・教科書の例を参考に支えてく れた人を思い出す。		・家族とのかかわりについて問 題を見いだして課題を設定して いる。	・家族とのかかわりについて、 課題の解決に主体的に取り組も うとしている。  ・家族とのかかわりについて、 課題解決に向けた一連の活動を 振り返って改善しようとしてい る。 ・よりよい家庭生活の実現に向 けて、家庭生活について工夫し 創造し、実践しようとしてい る。
	②わたしの 生活と家 族・家庭	1	A(1) ア	○家庭での活動を考え、家族・ 家庭の基本的な機能について理 解する。  ・中学生のいる世帯の1日の生活 時間のデータから、家庭の機能 を支える家庭の仕事を誰が担っ ているかに気づき、自分ができ ることを考える。			
	③家庭を支 える社会		A(1) ア	○自分や家族の生活は家庭内や 家庭外の活動が支えていること に気づく。  ・小学校での学習を思い出し、 家庭の働きと、それを支える活 動について考える。		・家族とのかかわりについて解 決策を構想し、実践を評価・改 善し、考察したことを論理的に 表現している。	
	④中学生に とっての家 族	2	A(3) アイ	○家族には互いの立場や役割が あり、協力することで家族関係 をよりよくできることを理解す る。 ・ロールプレイングを通して、 家族関係をよりよくする方法を 考える。 ・「生活にいかそう」にとりく み、自分の考えをまとめる。	・家族の互いの立場や役割につ いて理解している。  ・家族と協力することによって 家族関係をよりよくできること について理解している。		

A2 幼児の生活と家族	①幼児のころと今の自分	1	A(2)	○幼児期への関心をもつ。  ア ・自分の幼児期をふり返り、幼い頃の夢やエピソードなどをまとめる。		・幼児との関わり方について課題を見いだして課題を設定している。	・幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・幼児との関わり方について、課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。
	②幼児の体の発達	1	A(2)	○幼児の身体の発育について、発達の方向性や順序性とともにより個人差があることを理解する。  ア ・幼児と今の自分の脈拍の違いについて知り、幼児の体の発達の特徴について考える。	・幼児の身体の発達の特徴について理解している。		・よりよい生活のために、幼児との関わり方について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	③幼児の心の発達	1	A(2)	○幼児の言語・認知・情緒・社会性等の発達について理解する。  ア ・家族に抵抗する幼児を想像し、幼児の心の発達の特徴について理解する。	・幼児の心の発達の特徴について理解している。		
	④発達にとってのおとなの役割	1	A(2)	○子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。  アイ ・幼児が基本的な生活習慣を身につけていく過程での家族や周囲のおとなの役割を考える。	・子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。	・幼児との関わりについて解決策を構想している。	
	⑤遊びが必要なわけ	1	A(2)	○自分の実践的・体験的な活動を通して、幼児にとっての遊びの意義を理解する。  ア ・幼いころに遊んだ経験を思い出し、幼児がいろいろな遊びで育つ力について考える。	・幼児にとっての遊びの意義について理解している。		・幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・幼児との関わり方について、課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。
	⑥遊びを支える環境	1	A(2)	○幼児にとって遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。  アイ ・幼児のために工夫された遊び道具や遊び場所について調べ、遊び道具の役割や遊ぶ環境について考える。		・幼児との関わりについて解決策を構想し、考察したことを論理的に表現している。	・よりよい生活のために、幼児との関わり方について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3 幼児とのかかわり	①ふれ合い体験の前に	1	A(2) アイ	○幼児とのふれ合い体験について自分の課題をもち、ふれ合うときの留意点を理解する。 ・さまざまな幼児がいることを理解し幼児との接し方を考える。	・幼児との関わり方について理解している。	・幼児との関わり方について問題を見い出して課題を設定している。	
	②ドキドキワクワクふれ合い体験	2	A(2) ア	○幼児とのかかわり方について身につけた基礎的・基本的な知識を活用し工夫してふれ合う。 ・幼児に合った接し方や遊びを工夫し、考える。	・幼児との関わり方について理解している。		
	③ふれ合い体験は幼児からの贈り物	1	A(2) アイ	○幼児とのかかわり方について、感じたことや考えたことを話し合い、幼児への理解を深める。 ・幼児との触れ合い活動を通して、学んだことを発表する。	・幼児との関わり方について理解している。	・幼児との関わりについて解決策を構想している。	・家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	④子どもの成長と地域	1	A(2) アイ	○子どもの成長と地域のつながりについて知り、地域の中で、中学生ができることを考える。 ・「生活にいかそう」にとりくみ、自分ができることを考える。	・子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。 ・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることを理解している。	・幼児との関わりについて解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	
4 家庭生活と地域のかかわり	①家庭生活と地域での活動	1	A(3) アイ	○家庭生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。 ・地域の防災マップづくりなどを通して、家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることを理解し、自分ができることを考える。	・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることを理解している。	・地域の人びとと関わり、協働する方法について問題を見い出して課題を設定している。	・高齢者との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組む、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
	②多様な人びとが暮らす地域	1	A(3) アイ	○地域で多様な人びとが暮らせるための工夫を理解する。 ・ピクトグラムなど誰もが暮らしやすい地域づくりのための工夫を知り、理解する。	・高齢者など地域の人びとと協働する必要があることについて理解している。		・家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭との関わりにつ

	③地域に暮らす高齢者	2	A(3)  アイ	○地域で活動する高齢者や、見守りが必要な高齢者などさまざまな高齢者がいることを理解する。  ・立ち上がりや歩行などの介助体験を通して、さまざまな高齢者がいることを理解する。	・介護など高齢者との関わり方について理解している。	・高齢者と関わる方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想している。	・持続可能な社会を目指して、家庭・保育・地域などについて、工夫し創造し、実践しようとしている。  ・自立した消費者として、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。
	④高齢者とのかかわり	1	A(3)  アイ	○地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者とのかかわりを考える。  ・「生活にいかそう」にとりくみ、自分の考えをまとめる。	・介護など高齢者との関わり方について理解している。	・高齢者と関わる方法について実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	
5. 持続可能な家庭生活	持続可能な家庭生活をめぐして	1	A(1)  (2)(3)  C(2)	○誰もが尊重される家庭・地域の生活をめぐして、課題をみつけ、実践的に取り組む。  ・家族、地域、社会でのさまざまな問題を把握し、持続可能な社会に向けてできることを考える。		・社会や環境に配慮した家庭・保育・地域などの生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・社会や環境に配慮した生活について考え、工夫している。	・家庭分野で学習したことをこれからの生活に生かそうとしている。
3年間をふり返って		0.5	ABC	○3学年間の学習を振り返り、多くのことができるようになったことに気づく。 ・内容ごとにふり返らせ、これからの生活で生かしていきたいことを考える。			